

令和 5 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の
向上等に関する研究」 分担研究報告書

多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の 質の向上等に関する研究

研究分担者：高橋宏和 佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター 特任教授
研究協力者：磯田広史 同上 副センター長 助教
原なぎさ 同上 助教
今泉龍之介 同上 相談員
矢田ともみ 同上 客員研究員
井上香 佐賀大学医学部附属病院 地域医療科学教育研究センター 助教

研究要旨：現在、厚生労働省が推進している肝炎医療コーディネーター制度は、令和 5 年 3 月末時点では全ての都道府県で合計 29,451 名が養成され活動している。しかしながら自治体により養成数やその配置状況は異なり、活動内容や活動量についても、各肝炎医療コーディネーターによって様々である。令和 4 年 3 月に改正された肝炎対策基本指針において、「都道府県等において基本的な役割や活動内容等について明確にした上で育成を進めることが重要である」と示されており、佐賀県における肝炎医療コーディネーターの養成についてこれまでの状況を集計し、検討を行った。また肝炎医療コーディネーター活動に関連する日本肝臓学会の取り組みについて検討した。

A. 研究目的

現在厚生労働省が推進している肝炎医療コーディネーター（以下、肝 Co）制度は、平成 21 年に全国に先駆けて山梨県で肝炎ウイルス受検者や患者に対して理想的な意思決定を支援し、検査実施機関からかかりつけ医、専門医療機関の連携を密に行なうための橋渡しの医療職として育成が始まった。さらに平成 23 年度から厚生労働省の推進事業として全国的に肝 Co の養成と配置が進められ、平成 29 年 4 月には全国での均てん化に向けて、厚生

労働省健康局長から全国の都道府県知事に向けて肝 Co の養成と活用について基本的な考え方や養成、役割、活動について通達された。更に、令和 4 年 3 月 7 日に改正された肝炎対策基本指針において、「肝 Co の基本的な役割や活動内容等について、国が示す考え方を踏まえ、都道府県等においてこれらを明確にした上で育成を進めることが重要である」とされた。

一般社団法人日本肝臓学会（以下、日本肝臓学会）は、肝 Co 活動を支援すべく様々な活動を行っている。平成 30 年から、各

都道府県の肝疾患診療連携拠点病院からの公募で、肝 Co を対象とした研修会の開催を毎年支援している。さらに令和元年以降、肝 Co が肝臓専門医を含む多職種のメディカルスタッフと交流し、日頃の活動内容の共有、学術的研鑽、活動の均てん化やレベルアップの場として、日本肝臓学会が主催する学術集会において同会員資格の有無を問わずに発表ができるセッションを開催してきた。全国の拠点病院や医療機関、行政機関等から多数のメディカルスタッフや事業担当が参加し、活発な意見交換が行われている。

本年度は、佐賀県および佐賀大学医学部附属病院肝疾患センターがこれまでに実施してきた肝 Co 養成研修会およびスキルアップ研修会、そして日本肝臓学会が行っている肝炎医療コーディネーター支援事業について集計・解析を行なった。また日本肝臓学会の取組を調査した。

B. 研究方法

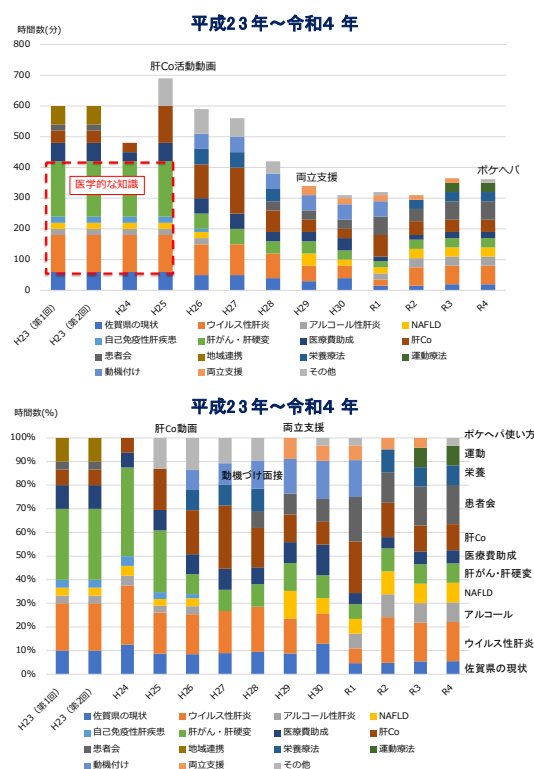
佐賀県において、肝 Co の養成・スキルアップ研修会の開始年度、R4 年度までの研修の構成（プログラムや講師、各講義の時間、テキスト、確認テスト（試験）内容）、研修会の日程と開催方法、申し込み方法・申し込み期間、定員制の有無、認定年限（更新の有無）、R4 年度までの養成者数について調査した。また日本肝臓学会における取組について、同学会事務局への聞き取りや告知を元にまとめた。過去の学術集会におけるメディカルスタッフセッションの状況を抄録集で調査した。

C. 結果

①佐賀県における肝 Co 養成研修会、スキルアップ研修会の講義内容の変遷

佐賀県における肝 Co 養成は平成 23 年度から開始され、講義の内容は佐賀県の肝

疾患対策の現状、ウイルス性肝炎や肝がん・肝硬変、アルコール性肝炎や非アルコール性脂肪性肝疾患、自己免疫性肝疾患などの医学的な知識、医療費助成、肝 Co についてなどのテーマで構成されていた。当初は医学的な知識に関する講義で全体の約 60%を占めていたが、平成 25 年からは肝 Co 活動の実践を学ぶ DVD の視聴が始まり、平成 26 年からは肝 Co の働きかけ方を学ぶための「動機づけ面接」講義が、平成 29 年からは「両立支援」講義が始まるなど、時代のニーズに即した、より実践的なテーマが順次取り入れられた。非アルコール性肝疾患への対策として、栄養療法や運動療法に関する講義も取り入れられており、令和 4 年度の養成研修会では、医学的な知識の割合は全体の約 40%程度になっている（図①）。



図① 佐賀県における肝 Co 養成研修会の講義内容の変遷（上：時間数、下：比率）

養成研修会での医学的知識に関する講義は必要最低限にとどめる一方で、スキル

アップ研修会では、B型肝炎やC型肝炎、アルコール性肝疾患や非アルコール性脂肪性肝疾患などの疾患を取り上げて、治療などに関する最新情報や、肝Co活動において役に立つ情報を提供できるように様に工夫している(図②)。

年度	プログラム	講師
R1(第1回)	養成研修会と同様(同時開催)	
R1(第2回)	① 肝炎医療における佐賀県の動向について ② 肝炎患者の置かれた状況について考える公開シンポジウム	佐賀中部保健福祉事務所 研究代表者 八橋 弘
R2(第1回)	養成研修会と同様(同時開催)	
R2(第2回)	① 肝がん・重症肝炎発症研究促進事業 ② 肝炎医療に関する動向について ③ アルコール性肝疾患：みんなで一緒に考えたいこと！	佐賀県 琉球大学 肝臓専門医
R3(第1回)	① スマホでアルコール性肝疾患を持つ患者さんに介入 ② アルコールに関連する肝疾患の課題点と今後について	佐賀県医療センター好生館 精神科医 肝臓専門医 × 精神科医 × 肝Co
R3(第2回)	養成研修会と同様(同時開催)	
R3(第3回)	① ここから始めよう！誰にでもできる肝Co活動紹介 ② B型肝炎 つまづくポイント ずばっと解決！	佐賀大学 肝疾患センター 管理栄養士 佐賀大学 肝臓専門医
R4(第1回)	養成研修会と同様(同時開催)	
R4(第2回)	① B型肝炎 ② C型肝炎の最新情報と肝Coの実践！	久留米大学 肝臓専門医 佐賀大学 肝臓専門医
R5(第1回)	養成研修会と同様(同時開催)	
R5(第2回)	肝Co活動の実践 理学療法士・管理栄養士・薬剤師	

認定更新との関係性はなし
終了すると都道府県知事の証明書を発行
個人毎のスキル受講状況は把握していない

図② 佐賀県における肝Coスキルアップ研修会の講義内容の変遷

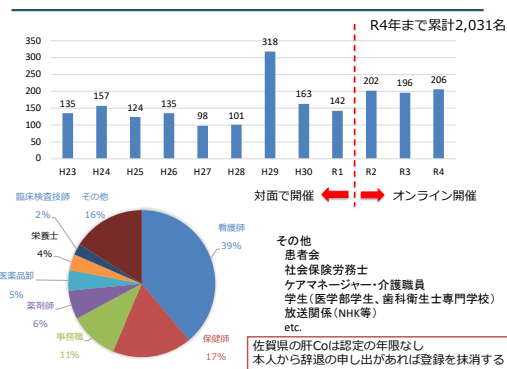
佐賀県ではあらゆる職種が肝Coを取得可能だが、両立支援の取り組みでは社会保険労務士を、高齢者対策ではケアマネージャーや介護職員など、また非肝臓専門医対策ではまず眼科のスタッフなど、重点課題に応じた職種や領域に参加を呼びかけてきた。

R4年度までに多様な職種の肝Co 2031名が養成されている(図③)。令和元年度までは全て対面で開催していたが、令和2年度からはCOVID-19の感染拡大の影響で、全てオンライン(オンデマンド)で開催している。養成研修会は定員を200名であるが、対面での開催中は100~150名程度であった。オンラインでの開催となった以降は、参加者は毎年ほぼ200名となっておりCOVID19感染拡大前よりやや増加している。参加者のアンケートでは、対面形式に比べるとオンデマンド配信では、自分の都合がいい時間帯に視聴ができる

ため、勤務予定が直前までわからない医療職や、子育て世代の女性から評価が高かった。わからないところを繰り返し確認できる点も好評であった。

テキストは、各講義のスライドをもとに作成して全参加者に配布している。また、肝Coが活動する際に、「予防」「受検」「受診」「受療」「フォローアップ」「その他」の各stepで活用できるリーフレットを全て掲載しているファイル「kantomo」も、テキストと一緒に郵送している。オンラインでの開催となったことから、研修会に必要なテキスト類は全て受講者に郵送する必要があり、郵送コストが高くなっている。なるべく簡素化・軽量化するように工夫している。

確認テストについては、あまり詳しい知識を問うのではなく、養成研修会に参加していれば解ける問題(きちんと受講したことが確認できるレベル)を確認している。知識を覚えるのではなく、テキストやkantomo等を確認しながらでもいいので、まずは肝Coとして活動を始めてもらうことを目指している。



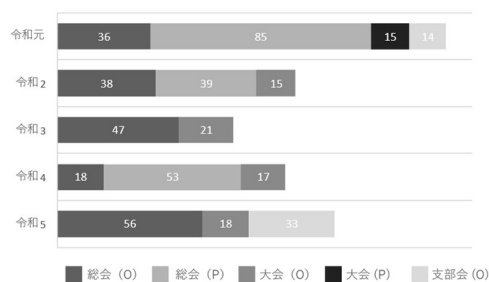
図③ 佐賀県における肝Co養成数と職種

② 日本肝臓学会の取り組み

日本肝臓学会は、平成30年度から肝炎医療コーディネーターを対象とした研修会開催支援を開始した。全都道府県の肝疾患診療連携拠点病院を対象とした公募で

開催される。同支援によって研修会を開催した拠点病院数は年々増加しており、令和5年度は28施設(全拠点病院の59.6%)が開催予定である。令和4年度に全28施設で開催された研修会の参加者数は2,267名であった。

肝炎医療コーディネーターの活動は各都道府県で養成状況や活動状況には差異がある2)。肝臓専門医や多職種のメディカルスタッフと交流し、日頃の活動内容の共有や学術的な研鑽を行うことは、肝炎医療コーディネーター活動のモチベーション向上やレベルアップ、均てん化に寄与すると考えられる。日本肝臓学会の学術集会では、令和元年第55回日本肝臓学会総会で初めて、発表に会員資格を必須としないメディカルスタッフセッションが開催された。肝炎医療コーディネーターセッションでは49の拠点病院が、医療行政セッションには地方自治体を含む36の施設がポスター発表を行なった。これ以降、肝臓学会総会のみならず、大会や東部・西部支部会でも肝炎医療コーディネーターが参加・発表可能なメディカルスタッフセッションが開催されている。新型コロナウイルスの影響をうけた令和2年度や令和3年度は発表数がやや減少したが、近年は再び増加傾向であり、令和5年度は年間で107演題が採択されている(図④)。



図④ 日本肝臓学会主催学術集会におけるメディカルスタッフセッションの演題数の変遷。(O), 口演発表; (P), ポスター発表

D. 考察

佐賀県における肝炎医療コーディネーター養成研修会では、講義はある程度詳しい内容までしっかりと解説するが、確認テストではあまり詳しい知識を問うのではなく、養成研修会に参加していれば解ける問題(きちんと受講したことが確認できるレベル)を出題している。あらゆる職種、所属の方々に肝Coとして肝炎対策に加わっていただくことを目指している佐賀県では、初心者の肝Coには発展的な知識を最初から覚えることよりも、テキストやkantomu等を確認しながらでもいいので、まずは肝Coとして活動を始めてもらうことを目指している。その上で、肝Co活動を実践するために更に発展的な知識が必要になった方には、スキルアップ研修会や他の講習会等で習得していただけるように環境を整えている。肝Coの主体性を尊重し、それぞれの職種や配置場所の業務の延長線上において何か一つでもできる活動から実践してほしいと考えているため、養成後に各肝Coが習得すべき知識や技術等に関する目標を設定しておらず、また評価する仕組みも構築していない。このため佐賀県における肝Coの知識や技術といったスキルについては、個人により非常に差がある可能性がある。

これまで肝 Co の養成やスキルアップ、配置等については、各都道府県がそれぞれの肝炎対策に実態に合わせて方針や目標を設定して実施してきた。佐賀県および全国において肝 Co の適正配置や活動における均てん化を進めていくためには、全国での調査状況も踏まえて佐賀県の現状を評価し、必要な対策について講じていく必要があると考える。

また日本肝臓学会が行う肝 Co に関連する主な取り組みは、研修会の開催支援と学術集会における発表機会の提供であった。どちらの取り組みも既に定着しており、今後は肝 Co 活動の均てん化への寄与が期待される。

E. 結論

肝 Co の適正配置や活動における均てん化および更なる活動の促進に向けて、佐賀県及び全国の調査結果も踏まえて、適切な目標設定および目標達成を目指した対策を講じていく必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

(1) 磯田 広史, 榎本 大, 高橋 宏和, 大野 高嗣, 井上 泰輔, 池上 正, 井出 達也, 徳本 良雄, 小川 浩司, 瀬戸山 博子, 内田 義人, 橋本 まさみ, 廣田 健一, 柿崎 暁, 立木 佐知子, 井上 貴子, 遠藤 美月, 島上 哲朗, 荒生 祥尚, 井上 淳, 末次 淳, 永田 賢治, 是永 匡紹. 肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーターの現状(第2報). 肝臓. 2023. 64(10):510-513.

(2) 田中 留奈, 磯田 広史, 八橋 弘, 四柳 宏, 高橋 宏和. ケアマネジャーを対象とした C 型慢性肝炎に関する全国アンケート調査. 肝臓. 2023. 64(7):301-

310.

2. 学会発表

(1) 今泉 龍之介, 磯田 広史, 矢田 ともみ, 西村 知久, 高橋 宏和. 眼科と連携した術前検査陽性者の紹介率向上への試み. 日本消化器病学会九州支部例会・日本消化器内視鏡学会九州支部例会プログラム・抄録集 121 回・115 回 Page73(2023. 05)

(2) 今泉 龍之介, 磯田 広史, 矢田 ともみ, 江口 有一郎, 西村 知久, 是永 匡紹, 高橋 宏和. 眼科と連携した術前検査陽性者の紹介率向上への試み. 肝臓 64 巻 Suppl. 1 Page A297(2023. 04)

(3) 江口 眞子, 磯田 広史, 江口 有一郎, 高橋 宏和. 拠点病院の医学生が始める肝炎医療コーディネーター活動. 肝臓 64 巻 Suppl. 1 Page A279(2023. 04)

(4) 今泉龍之介, 磯田広史, 井上香, 大枝敏, 高橋宏和. アプリケーションを活用した肝疾患専門医療機関への受診率向上の取り組み. 日本消化器病学会九州支部例会・日本消化器内視鏡学会九州支部例会プログラム・抄録集 122 回・116 回 Page73(2023. 05)

(5) 中西那月, 磯田広史, 江口眞子, 江口有一郎, 高橋宏和. 拠点病院の医学生がつなぐ肝疾患コーディネーターのバトン. 日本消化器病学会九州支部例会・日本消化器内視鏡学会九州支部例会プログラム・抄録集 122 回・116 回 Page73(2023. 05)

(6) 今泉龍之介, 磯田広史, 井上香, 高橋宏和. 院内における HCV 抗体陽性者への対応状況について. 肝臓. 64 巻 suppl. 3 Page A802(2023. 12)

(7) 肝疾患コーディネーターを取得した臨床検査技師が実施する SVR 後肝がん対策. 肝臓. 64 巻 suppl. 3 Page

3. 書籍

- (1) 肝胆膵 Vol.88 No.2 2024 アークメ
ディア
これからの肝疾患診療における肝炎医療
コーディネーターへの期待-日本肝臓学
会の取り組みと今後の課題-

G. 知的所有権の取得状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし